様式3

学校番号 55

令和　6　年度　学校評価書　（ 実施段階 ）

福岡県立　福岡農業　高等学校　専攻科

スクール・ミッション （本校の存在意義や社会的役割 目指すべき学校像）	将来の福岡県の農業・生活産業を支える人材を育成する学校 都市近郊の広大な土地を生かした農業実習や、最先端の農業技術、時代の変化に応じた農業経営などの学習を通して、福岡県の農業や農業関連産業をけん引する次世代のリーダーを育成します。	
スクール・ポリシー （三つの方針）	グラデュエーション・ポリシー （育成を目指す資質・能力に 関する方針）	・農業・食品分野において、中核として活躍できる専門知識・技能を育成する。 ・豊かな人間性と高いコミュニケーション能力を育成する。 ・グローカルな視野を持ち、地域社会や国際社会に貢献できる能力を育成する。
	カリキュラム・ポリシー （教育課程の編成及び実施に 関する方針）	・実践的科目編成によって、課題解決能力の育成を図る。 ・国際理解教育を通して、多様性、言語能力を高める教育展開を行う。 ・主体的、対話的で深い学びに繋がる授業展開を実施する。
	アドミッション・ポリシー （入学者の受け入れに 関する方針）	・志を持ち、農業・食品の未来を創造する進路を希望するもの。 ・農業・食品及び地域の発展に貢献できるもの。 ・互いの多様性を認め、協働できるもの。

様式3

学校運営計画（4月）

学校運営方針	校訓「自彊」（自らすすんで努力し、励むこと）に基づいた学校経営を行う。 （1）高い志を持ち、知・徳・体のバランスの取れた、農業の未来を創造する学生の育成をめざす。 （2）農業及び地域産業の発展に貢献できる優れた人材の育成をめざす。		評価 （総合）
昨年度の成果と課題	年度重点目標	具体的目標	
【令和5年度の成果】 1　新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行により教育活動を概ね計画の通り実施できた。 2　進路実現のため、社会人招聘や外部研修等を実施し、キャリア教育の充実を図った。学年及び各専攻が進路指導部と連携し、2学年の希望進路実現に取り組むことができた。 3　オープンキャンパス、学園祭では、学生が主体的に活動し、本科の教育活動を来場者に伝えることができた。また、HPの専攻科日記の日々の更新やInstagramを利用した広報活動は効果的な情報発信につながった。 【令和5年度の課題】 1　専門性を生かした進路を選択し、中核として活躍できるよう、特別非常勤講師と連携した講義、研究を行い、より高度な専門性を身に付けさせる。 2　社会の変化と時代のニーズにあった教育活動を実施するために、教員の研究や研修を計画的、継続的に実施する。 3　専攻科の教育活動をより広く、伝えるためにSNSの活用など広報活動を工夫するとともに、各農業高校に専攻科の研究成果等を還元する取組を実施することで魅力発信に努める。	社会の進展に対応した魅力ある教育活動の実施に努めるとともに、技術革新、国際化、情報化に対応できる実践的能力を育成する。	ICTを効果的に取り入れ、個別最適な授業づくりに取り組むとともに教科間の連携を図り、主体的に学ぶ意欲を喚起する。研究授業をはじめ、OJTを通して指導力の向上を図る。	A
	新カリキュラムの特性を効果的に活用し、学生の特性・適性に応じた進路支援を推進することで、専門性を生かした進路実現を支援する。	3年間のキャリア教育計画を全職員で共有する。生徒個々のキャリアパスポートを基に、多様な進路希望に対応した指導を組織的かつ体系的に行う。	
	教員の個人研究や専門性向上のための研修を推奨し、授業改善と教科指導力の向上を図る。	ホームページとインスタグラムによる情報発信を活発に行うことで、中学生、保護者、地域に教育活動を発信する。年間3回の中学校訪問を行う。体験入学の内容の改善を図る。	
	幅広い高校を対象として積極的な広報活動を行い、専攻科の魅力ある教育内容を発信する。	農業に関する3学科と専攻科との連携を推進し、プロジェクト学習等の充実を図る。生活デザイン科（家庭科）における学習活動の成果を積極的に発信する。	

自己評価

評価項目	具体的目標	具体的方策	生徒、保護者対象のアンケート（外部アンケート等）の結果等	評価（3月）			結果の考察と次年度の課題	学校関係者評価 項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見
教　務	入学志願者の増加を図り、定員を確保する	各専攻に対して専攻科日記への月1回以上の掲載を依頼する。	学校訪問数に対して学生の応募数が少ない。	A	A	A	広報関係の働きかけが十分ではなかったので、次年度はこの点に注力していく。	A	授業アンケートの結果を授業改善に役立てて学生の興味関心や満足度がさらに高まるよう今後も取り組んで欲しい。
		高校の進路ガイダンスへの参入を依頼する。		A					
		出前授業や探究の時間等を使った講義など高校との連携を模索する。		B					
	教務規範を遵守する	渋滞や災害による遅延に対する時間補充の措置を考える。	授業アンケートの結果、どの科目についても興味関心が高い学生が多かった。	A	A		教務規定に関して、講師・学生に十分な理解が得られていないので、引き続き周知していく。		
		学生にむけて教務規定改訂の周知を図るとともに職員の共通認識を得る。		A					
		授業アンケートをとり、結果を職員に配布し、授業改善を促す。		A					
生活指導	大人として自覚る行動ができ、社会で通用する能力を有する学生を育成する。	成人として学生を育成する指導、支援を随時行う。	学校生活を総合的にみて満足度約87%	A	A	A	学校生活に満足している学生は多いが、共同生活という点でのマナーや、ルールの再確認をする必要がある。次年度は、学生の自立を促すとともにマナーとルールの周知を行っていく。	A	情報化で人間関係の希薄化が問題視される中、コミュニケーションを取りながら組織的に動くことができる人材が社会では求められている。よって社会の即戦力となれるような豊かな人間性の構築ができるように指導して欲しい。
		豊かな人間性及び社会で通用する能力を養わせる指導、支援を行う。		A					
		職員集団が学生に大人としての対応等が見受けられる環境を構築する。		B					
	校友会組織の活性化を図り、充実度を80%以上目指す。	校友会を中心に、学生が主体的に活動できる自治活動組織となるよう指導、支援を行う。	行事について満足度約87% 学校生活を総合的にみて満足度約90%	A	A		学校生活や行事について、満足度は高いものであったが、行事における主体性や自分たちの学校であるという気持ちを高めていく必要がある。自分たちで考えて動く、ということをリーダーになる学生たちに身につけさせたい。		
		全学生が目標達成に向けて見通しを持って行動できる組織となるよう指導、支援を行う。		B					
		校友会で行う行事をさらに充実させ、外部へ活動内容を発信する。		A					

様式3

自己評価								学校関係者評価	
評価項目	具体的目標	具体的方策	生徒、保護者対象のアンケート（外部アンケート等）の結果等	評価（3月）			結果の考察と次年度の課題	項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見
進路指導	学生が希望する進路の早期決定を目指す。	企業や大学の説明会等の開催情報をいち早く入手し、学生に公開する。また学生自身の情報収集活動も促す。	学校満足度アンケートの進路指導に関し満足度は約93%であった。	A	A	A	事前の支援活動は行っていたが、まだまだ不十分である。進路決定率は80%。 早めの活動開始と十分な情報提供が必要である。各専攻による支援はしっかり行っており、今後も継続する。	A	大手企業や研究内容を活かした専門職に多くの学生が就職しており、進路指導に関しての満足度も高くとても良い。今後も卒業生講話などの進路行事に関する取組を発展させて更なる結果が残せることを期待する。
		担任及び学科専攻の職員と連携し学生の進路希望を集約し、職員が情報を共有し支援する。		B					
		学生の就職活動、進学活動に有効な支援事業を企画する。		A					
	適切な受験指導を行い、合わせて社会人に必要なマナーの習得も促す。	スマートフォンやPCによるWEBでの説明会・面接に対応できるように支援し、利用に関するマナー指導も行う。	学校満足度アンケートの進路指導に関し満足度は約93%であった。	A	A		現在の就職活動において、WEBでの参加型の説明会、1次面接・学科試験・応募書類提出についてもWEBでの例があった。職員は適宜対応できていた。内容はその都度報告書として残すように今後も促す。7月までの内定は60%、企業の都合により試験の日程が遅れた例もあった。		
		企業や大学の説明会などに参加するための事前指導や事後指導を行い、スキルアップに繋げる。		A					
		就職試験・進学試験等の受験指導を専攻・学科を中心に連携して行い、7月までに70%の合格を目指す。		B					
庶務	70周年記念事業の充実を図る。 後援会活動の充実を図る。 同窓会総会の充実を図る。	70周年記念事業の研修先を3か所以上設定することで、研修内容を充実させる。	後援会総会を円滑に実施できた 職員：円滑に実施できた92%	A	A	A	70周年学生特別研修の本来の目標である海外での研修を行う。そのために、学生の意見を取り入れ、前年度から綿密に計画する。 日頃から職員全員で広報活動を行い、後援会や同窓生、外部の方々に専攻科での学生生活を知ってもらう。	A	後援会や同窓会とうまく連携を取りながら学生の支援ができている。特に70周年記念事業である海外研修についてはコロナ禍や世界情勢によって国内に変更せざるを得なかったがとても充実していた。令和7年度は海外研修実現に向けて頑張って欲しい。
		専攻科の教育活動をご理解いただくために、後援会総会への出席率4割以上を目指す。		A					
		専攻科卒業生のうち教育関係者の所属先を明らかにし、同窓会総会の出席者数10名以上を目指す。		B					
	諸行事のスムーズな運営を図る。	学生・職員・後援会・同窓会・事務室など各関係部署と連携を取りながら、約1か月前には行事の準備を行う。	70周年研修に参加して良かったか 学生：大変良かった100%	A	A		必要に応じて随時庶務会議を行うことで、行事や役員会等の準備を円滑に行うことができた。それが職員全体での円滑な行事の運営に繋がったため、来年度も密にコミュニケーションを取り合い、準備を進めていく。		
		週に1回庶務会議を行い、役割分担や進捗状況を確認することでスムーズな行事の進行に努める。		A					
		行事終了後にアンケートを取ることで、次年度の行事をより充実させる。		A					
1学年	成人としての自覚を持ち、責任ある行動がとれるようになる。	学校中心の生活習慣、体調管理ができるよう促し、出席率90%を目標にする。	出席率は97%で良好。面談により生活態度も落ち着いた。掲示板を見ての行動もできるようになった。	A	A	A	アルバイトをしている学生が時々体調を崩す傾向がある。学校生活を中心にするよう適時指導する。	A	企業内定が年々早まってきているので今まで通り入学時から就職指導を充実させた方がよい。また、具体的な進路目標については就職も進学もミスマッチが起きないようにじっくり検討をして欲しい。
		前期・後期2回以上の面談を行い、自身の行動を改善させる。		A					
		掲示板を見て行動するよう指示し、直接の連絡は必要最低限にする。		A					
	進路目標を早期に決め、具体的に行動できるようになる。	適時面談を行い、進路について具体的に考えさせる。	進路についての意識は高まったが、具体的な目標を決めるまでには至っていない。	A	A		自己認識が不十分で自分の適性を理解できていない学生への面談を適時行う。		
		前期で50%以上、後期80%以上の学生に具体的進路目標を決定させる。		B					
		進路部と連携し、具体的な企業とそれ応じた対策を立て指導する。		A					
2学年	自身の行動に責任を持ち、社会に通用出来うる学生が100%となることを目標とする。	1年次よりさらに成人として責任ある行動ができるよう、各種ツールを活用しながら指導、支援を行う。	学校生活を総合的に見て満足していますか 1.2学年全体 大変満足：64.3% 満足：28.6%	A	A	A	修学旅行に関する事前の下調べや、しおり作成、研修報告を学科を問わず、協力して実施させたことから、発言力やコミュニケーション力の向上が見受けられた。一方、個人で見通しを立て実行する力がまだ十分ではないため、個別に課題を与え解決する機会を多く取り入れていく必要がある。	A	進路を決定する際にミスマッチが起きないよう多面的に検討して欲しい。また、学生が積極的に就職活動を行うことができるような意識付けをお願いしたい。 そのためにも進路指導部と担任と専攻担当が密に連携を取って継続的に対応して欲しい。
		個々の目標達成に向けた見通しを自ら立て、実行できる能力を養わせ、更なる飛躍につなげることのできる指導、支援を行う。		B					
		職員が学生個々の課題を発見し、学生へ明確に伝えると同時に、改善に向けた指導、支援を充実させる。		A					
	1年次に行ったキャリア教育を基盤にして、8月までに80%以上、12月までに90%以上の進路決定を目指す。	担任及び各専攻職員並びに進路指導部と学生の情報を随時共有し、状況に応じた個別対応を行う。	進路指導に満足していますか 1.2学年全体 大変満足：28.6% 満足：64.3%	B	A		1年次にキャリア教育の基盤はできていたが、2年次に就職活動への意識を継続することができない学生がいたため、進路部と担任や専攻の教員が連携して継続的な面談を行う。		
		普段から学生とコミュニケーションを図り、個々の進路活動状況を把握し、必要に応じて指導、支援を行う。		A					
		進学及び就職に関する情報をクラスで掲示し、併せて学生への周知を徹底する。		A					

様式3

自己評価								学校関係者評価	
評価項目	具体的目標	具体的方策	生徒、保護者対象のアンケート（外部アンケート等）の結果等	評価（3月）			結果の考察と次年度の課題	項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見
生物生産科	専攻科の学習内容を生かし、個々の学生の特性に応じたきめ細やかな進路指導を実施する。	週1回学科会議を行い、学生の状況等を全員が把握する。	学科会議は毎週実施し、情報の共有をしている。	A	A	A	引き続き学科の定例会議を行い、学生の状況を把握し指導する。	A	専攻科の新教育課程に則った指導ができており、学生の興味関心も高い。今後も更なるレベルアップを望む。
		進路部と連携し、具体的な企業とそれ応じた対策を立て指導する。		A					
		学生自身の進路に対する現状を認識させ、職員とともに何をするべきか検討する。		A					
	新教育課程に対応した教育活動と効果の上がる教育内容を実施する。	各専攻で特色のある授業内容を構築し、実践する。	授業アンケートの結果、学科の科目について興味関心は高かった。	A	A		教科指導内容のレベルアップを図る。農場でICT活用できるようにWiFi設置をお願いする。		
		ICTを活用した教育を各科目で行うようにする。		A					
		授業アンケートの結果を参考に授業の改善を図る。		A					
食品工学科	学科全体の専門性を高め、学科の充実度を80%以上目指す。	卒業研究、専攻実験実習及び専門科目を通して、科学的な視点を持たせ、専門的知識及び技術を習得させる。	学科会議を毎週実施し、学生の様子や情報の共有をしている。	A	B	A	学科ごとの発表となり、より科学的な視点を持てる環境となったた。今後は普段の授業の中で、実験や機械操作の基礎基本を習得させ、卒業研究に応用できるように指導していく。	A	食品工学科の卒論研究は素晴らしく、講義や実験実習の内容も充実している。さらに学生の満足度を上げることができるように取り組んでもらいたい。
		学生が主体的に活動できる環境を確立させ、問題解決能力を習得させる指導、支援を行う。		B					
		学生の実態を把握したうえで学科の独自性を見出し、学生、職員ともに向上できるような活動を行う。		B					
	食品関連産業への進路実現80%以上目指す。	食品分野に関連した資格情報を学生に周知し、必要に応じて取得に向けた支援を行う。	前期に行われた授業アンケートでは、学科科目への興味関心は高かった。	A	A		今年度の企業研修で、学生たちに就労の意識や衛生に対する意識の向上の意識づけができた。次年度も企業への研修や講演等を実施し、学生への衛生管理指導や進路指導および支援に役立てる。		
		専攻を中心に学科全体で学生の実態に応じた進路指導、支援を行う。また、学生へアンケート調査を実施する。		A					
		専門性を活かした進路先の充実を図るために、企業へ訪問や研修に出向き、企業との関係を構築する。		A					

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

・更に魅力のある授業とするために授業アンケートの質問項目を見直し、結果を分析することで授業内容の改善を図り、学生の満足度を向上させる。
・校外研修として様々な業種の企業や生産者を訪ねることでキャリア教育に注力し、就職や進学のベストマッチを図る。
・地域の祭りや催し会場、県庁1階ロビー等で研究や学習の成果（物）を紹介し、あわせてInstagramやHPに掲載することで専攻科の周知を図る。
・行事等を今まで以上に学生主体で計画・実施し、社会に出て即戦力となれるスキルを身につけることができるように教員はサポートに徹する。
・新カリキュラムの検証と、教務内規の見直しをすることでより充実した教育環境を整える。

学校関係者評価	
評価（総合）	自己評価は A：適切である B：概ね適切である C：やや適切でない D：不適切である
A	
評価項目以外のものに関する意見	
世界情勢や円安等諸事情あるが研修旅行の行き先は海外にすべきだろう。研修内容もさることながら何と言っても宣伝効果も大きい。	